Nagoya Linguistics（名古屋言語研究）
2007 Vol.1, pp.29-42

人称表現における感情表示機能

加藤　淳（名古屋大学大学院）

要　旨

人称表現は，話手が聞手との関係をどのように決定するかにかかわる，心的態度の表示となる。「人称」は，ヴォイスやモダリティ，待遇表現などの研究において，「話手」「聞手」の関係を示す心的距離の基準点として記述されてきたが，「人称」そのもののあり方とそれらの言語現象との関係を体系的に統合するような説明はなされてこなかった。本稿では，話手の心的態度が端的にあらわれるものとして「人称」に着目する。まず人称表現に話手からみた人間関係があらわれることを示し，さらに，話手と聞手の関係が同じで個別に異なる人称表現があらわれる場合には心的距離の変化が示され，この変化が話手の感情の表示となると指摘する。ヴォイスやモダリティ，待遇表現は，すなわち話手の心的態度の表示である。本稿の整理は，ヴォイスやモダリティ，待遇表現のシステムの体系的な説明にもつながる，話手による人称表現の選択という視点からの発展的な説明の端緒となる。

1.　はじめに

日本語の人称表現は，感情表現など話手の主観的態度があらわれるモダリティの体系，また，授受表現など話手や聞手だけでなく話題の登場人物も含めた発話参与者の視点が関与するヴォイスの体系など，言語の命題的情報に対する話手の主観的態度をあらわす表現にきわめて直接的に反映される。さらに，敬語などの待遇表現においても，話手の聞手への心的態度や距離が言語にかかわるという点で，人称表現は大きな役割を担っている。従来の研究においては，「話手」「聞手」を基準点にした「なわばり[1]」や「視点[2]」の概念によって，授受表現や敬語などの「人称指定」，感情表現における「人称制限[3]」などが示された。人称の研究においても，「視点」「領域」といった観点から，また「語彙的」「統語的」といった言語類型論の立場から説明がされてきたが，それぞれ個別の観点・立場からの記述である。

本稿では，人称表現が話手からみた人間関係をあらわすことに着目し，「人称」を話手を軸としたコミュニケーションの構造から捉えて説明する。具体的には，ドラマ『白い巨塔』の台詞を資料に，「自称」「対称」のバリエーションを分析し，人称表現がドラマの登場人物間の関係をあらわす指標となっていることを示す。そして，特に「話手」による人称形式の選択がストーリーのなかの人間関係を示しており，人称形式の違いが，「話手」と「聞手」との立場の違いや心的距離の変化をあらわしていることを主張する。さらに，アメリカのドラマ『ER／緊急救命室』の英語の台詞とその日本語訳の台詞を資料として，日米語の医師と看護師の人称表現にみられる人間関係の指標の違いを述べる。

1　神尾（1990）では，「情報のなわ張り」としている。

2　久野（1978）「視点制約」，近藤（1987）「主観表示システム」，澤田（1993）「視点の条件」，金水（1995）「視点的人称」，廣瀬（1997）「状況の関与者に関する視点階層の原則」など，多くの研究がある。

3　東（1997）は，山岡（1994）の提案した，命令のようにモダリティがある人称を必然的に指定する場合を「人称指定」，そうでない場合を「人称制限」と使い分けるという案を支持したうえで，必然的に決定される人称の制約を「必然的人称指定」，語用論（運用論）的にある人称がとりにくい場合を「語用論的人称制限」としている。

本稿の整理は，「人称」の使い分けの記述にとどまらず，話手による人称表現の選択が「話手」と「聞手」の心的距離を示すことに着目し，「人称」の体系からヴォイスやモダリティ，待遇表現のシステムを捉えなおすことを提案するものである。

2. 人称表現における従来の指摘と本稿の立場

2.1 日本語の人称表現

日本語の「人称詞」は，「わたし，ぼく，おれ」「あなた，きみ，おまえ」といった「人称名詞[4]」だけでなく，「中村，山田さん，田中様，山ちゃん」などの実名や愛称，「お母さん，パパ，おじいちゃん」といった親族名[5]，「課長，社長，総理」などの職階，「八百屋さん，運転手さん，お客さん，学生さん」といった職業・役割名など，多様な語がその役割を担うことができる。

(1) で「おれ」は，常に話手を直示する人称名詞（自称[6]）である。

(1) 柳原：おれまじめに言ってんだぞ。
竹内：おれだってまじめだよ。 （ドラマ『白い巨塔』7話）

同様に，(2) で「きみ」は，それぞれ聞手を直示する人称名詞（対称）である。

(2) 里見：内科医の自分から見ても見事なオペだった。膵臓ガンのオペをこれほど完璧にできる人間は，きみをおいてほかにはいないと思う。
財前：きみに褒めてもらえるとはな。 （ドラマ『白い巨塔』2話）

「人称名詞」は話手・聞手という役割はあらかじめ決まっているが，「おれ」が柳原を指すのか竹内を指すのかという指示対象[7]は発話の場面によって決まるという直示性[8]を備えており，この点において指示詞と性質を同じくする。直示性は，「あなた，あんた」など対称の人称名詞が「目上または親しくない人には使いにくい」[9]という性質にも関わっている。金井（2002）で言及されているように，「そちら」「そちらさま」などは場所をあらわす直示性を持つ指示詞が対称を示す用法として使われるもの[10]であるが，文脈によっては使いにくい[11]。

これに対して，家族をあらわす名詞や固有名詞はすでに誰を指すかが決まっていて，単に話手，聞手という対話の役割がそれに加わったものである。(3) の「お母さま」は，「母政子」であることが決まっており，母政子の台詞では話手を，娘佐枝子の台詞では聞手を指し，自称，対称として機能するものの，直示的ではない。

(3) 政子：お母さまの言っている意味，分かるわよね？あなたのためよ。
佐枝子：何を言ってるの？お母さま。 （ドラマ『白い巨塔』7話）

同様に（4）の「東先生」も，発話の聞手が東教授であるため，対称として機能しているだ

---

4 本稿では，「人称をあらわす語」をすべて「人称詞」とし，「わたし，ぼく，おれ」や「あなた，きみ，おまえ」など人称表示専用の語は「人称名詞」として，「人称詞」の下位分類に位置づける。
5 金水（1989）では「親族名」，鈴木（1973,1982）では「親族名称」としている。
6 「自称」「対称」の用語については，本稿「2.4 本稿の立場」で説明する。
7 金井（2002）では，「指示対象は誰であるかという意味での「内容」は，会話の場において初めて与えられる」と説明されている。(p.83)
8 直示（Deixis）について詳しく述べたものに Fillmore（1975：1997 Lectures on Deixis に再録），語用論から述べたものに Yule（1996）がある。また，三上（1953）は「境遇性」という用語を用いている。
9 ただし，自称の人称名詞「わたし，ぼく，おれ」などは聞手が目上であっても使うことができる。
10 金井（2002）は，直示をさらに「直接」「間接」の２つに分類し，「あなた」などの人称名詞は「直示・直接」，「そちら」などの指示語は「直示・間接」であるとしている。
11 金井（2002）にも「そちら」について「適切でない状況における使用は，疎外感を与えかねない」との指摘がある（p.85）。

けである。発話の聞手が東教授の妻であれば対称にはならない。

(4)　財前：ご自宅まですみません。東先生にお願いしたいことがありまして。少しお時間をいただけないでしょうか？　（ドラマ『白い巨塔』7話）

2.2　人称表現の語用論的な側面

印欧諸語における人称代名詞は，直示機能を持つ代名詞の下位分類であり，主語と述語，名詞と冠詞などとの統語論的・形態論的な一致現象を持ち，その多くは性・数・格一致の現象を伴う，閉じた語彙群[12]である。こうした言語において使われているのが，自分を指す一人称，相手を指す二人称，第三者を指す三人称という分類である。

日本語の人称詞は，人称代名詞のように閉じた語彙群からなるカテゴリーではなく，統語的な一致現象を担うものでもないため，直示機能を持たない普通名詞であっても人称をあらわすことができる。「お母さんなんて嫌い」と子どもが母親に面と向かって言ったとすると，「お母さん」は二人称にあたるが，「お母さんが悪かったわ」と子どもに向かって母親が自分自身のことを「お母さん」と言った場合，一人称にあたる。さらに，「太郎君，お母さんはどこ？」と幼稚園の先生に子どもが聞かれる場面では，「お母さん」は三人称になる。同じ語が一人称になったり，二人称や三人称になったりするのである。

英語にも「一人称／二人称／三人称」が形の上では区別できない語用論的な使い分けがみられる。例えば，日本語で「パパがやってあげよう」と子どもに向かって父親が自分のことを「パパ」と呼ぶのと同じく，英語でも Mommy, Daddy などのような親族名を自称として使い，Mommy'll do it for you. あるいは Daddy wants you to sit still[13].といった言い方をする。また，医者や看護師が患者に呼びかける際の How are we feeling today? や子どもに学校のことを聞く場合の How did we do at school today? のように，一人称複数の we[14]が対称をあらわすことがある。

敬語の研究では，「敬語的人称」という概念を用いて「普通の意味での一人称／二人称／三人称」「二人称並み／一人称並み」「敬語上のⅠ／Ⅱ／Ⅲ人称」などと説明[15]しているものもある。初期の敬語研究において，山田孝雄がそれまでの「自称／他称」による敬語の分類から「一人称／二人称／三人称」の概念を用いての分類をしたことの是非を問う論争もあった[16]。本稿では，「一人称／二人称／三人称」と「自称／対称／他称」とを異なる次元での分類と考え，「自称／対称／他称」の観点から論をすすめる。

2.3　「語彙的人称」「統語的人称」「語用論的人称」

Siewierska (2004) は，言語類型論の立場から人称表示マーカー (person marker) の形式と機能を代名詞性の段階 (The pronominality scale) で示し，その両極を＋名詞的 (+Nominal) と＋代名詞的 (+Pronominal) とし，タイ語や日本語の人称表示マーカーを「＋名詞的」，英語やポーランド語の人称表示マーカーを「＋代名詞的」に位置づけた。

山岡 (2000) は，人称が「言語表現の上で表れるのには，個別言語によって三種類の表れ方

12　代名詞や指示詞のように限られた語からなり，自由に新たな語を加えることができない範疇

13　英語には統語的な制約があるため，この場合の動詞 want は三人称単数現在形 wants となる。

14　paternal we　(保護者的な we)，inclusive we (包括の we) と呼ばれるものである。

15　菊地 (1994, pp.119-131)

16　滝浦 (2005, pp.208-232)

がある」とし，その三種類を「語彙的人称 lexical person」「統語的人称 syntactic person」「語用論的人称 pragmatic person」としている。そして，「日本語においては，統語的人称として表れることはなく，語彙的人称と語用論的人称を併用することになるが，語用論的人称の効力が圧倒的に優位である」と説明している（pp.16-25）が，「語用論的人称」は「語彙的人称」がどのようにして「人称」を指すことができるかということにかかわるものであり，「語彙的人称」や「統語的人称」と並列できる概念ではない。いわば「語彙的人称」「統語的人称」の外にある概念である。

日本語において，多様な語がどのようにして「人称」を指しているのか，そのシステムを明らかにするためには，形式と機能の個別的な記述だけではなく，コミュニケーションの場における人称表示のシステムに焦点をあてた説明，すなわち「語用論的人称」の説明が必要である。「話手」が位置づける「自称／対称／他称」の関係から捉えることにより，「人称」をより体系的に説明することができる。「人称」の使い分けを記述するだけでなく，体系として記述・説明することにより，人称表現の選択にかかわる文法事項を，「話手の選択による人称形式が表示する心的態度」とのかかわりから包括的に説明することができるのである。

2.4 本稿の立場

本稿では，コミュニケーションのプリミティブなあり方を会話の場における「話手」と「聞手」の関係にもとめる。そして，コミュニケーションの場において，話手が自分自身をどう位置づけるかという概念を「自」，対面の場における話手「自」に相対する聞手を「対」，話手と聞手以外の「他」とし，以上を会話の場面を構成する基本的な概念とする。さらに，実際のコミュニケーションの場において，話手が自分自身をどう称するかを「自称」，話手が「対」の概念においた聞手をどう呼ぶかを「対称」，話題のなかに登場する「他」を話手がどう呼ぶかを「他称」とし，これを「人称」の基本的な分類とする。

これらの概念と人称の関係は日本語特有のものではなく，すべての言語に通じる普遍的なコミュニケーションの構成と考える。その上で，本稿では言語表現として表面にあらわれる「人称」の表現を取り上げ，人間関係すなわち「話手／聞手」の関係によって，どのように人称表現の選択がされているかを記述していく。特に自称と対称に着目して，人称表現が社会的な待遇表示を含む人間関係の表示だけでなく，感情の表示としても機能することを説明する。

3. 自称のバリエーション／対称のバリエーション

ドラマ『白い巨塔』[17]の台詞を資料として，主に「自称／対称」のあらわれ方のバリエーションをみていく。

3.1 「自称」と「対称」

先の整理に基づいて話手が自分自身を呼ぶ表現を「自称」，話手が聞手を呼ぶ表現を「対称」とする。対称には性質の異なる２つの用法[18]がある。１つは「統語的に文中要素との関係を持つもの」で，(5) から (8) の例のように格助詞が接続して名詞句になる「対称」の語をいう。

---

[17] DVD 版『白い巨塔　第一部（全 10 話）』（ポニーキャニオン）

[18] 鈴木（1973）では「呼格用法」「代名詞的用法」，田窪（1997）では「文内対称詞」「呼びかけ語としての用法」，大杉（1982）では「人に対する呼びかけや言及の呼称」としている。

(5)　小西：財前先生が，じきじきに切ってくださるんですか？　(1話)

(6)　財前：場合によっては，きみを殴るかもしれん。　(3話)

(7)　里見：きみに一つ聞きたいことがある。　(10話)

(8)　里見：きみから電話があると思ったよ。　(3話)

もう1つは「統語的に文中要素との関係を持たないもの」であり，「田中課長，課長はどうお考えですか。」「率直な意見を聞かせてくれないか，田中君。」「おい，田中，どこへ行くんだ。」のように，文頭・文末，あるいは文中で助詞を伴わない形で聞手に直接呼びかける，「呼びかけ」がこれにあたる。(9)(10)(11)のように，「おい，なあ，ねえ」といった感動詞を伴ったり，(12)や(13)のようにあいさつの前後に「呼びかけ」がつくこともあるが，(14)の「里見先生。」のように一語のものも「呼びかけ」である。

(9)　財前：おい，きみ。　(9話)

(10)　里見：なあ，財前。きみはなぜオペの延期を嫌がるんだ？[19]　(10話)

(11)　政子：ねえ，菊川さん。　(7話)

(12)　佐枝子：おかえりなさい，お父さま。　(8話)

(13)　政子：佐枝子さん，いってらっしゃい。　(2話)

(14)　よし江：里見先生。　(9話)

(15)の「里見先生」は「呼びかけ」であり「統語的に文中要素との関係を持たないもの」であるが，「あんた」は「統語的に文中要素との関係を持つもの」となる。例(16)の「あんた」は文中要素との格関係を持たない「呼びかけ」に分類する。

(15)　財前：里見先生，何であんたいつもそんなに涼しい顔をしていられるんですか？　(7話)

(16)　岩田：あんた，そない極端な。　(8話)

3.2　資料及び分析について

本稿で，ドラマというフィクションにおける言語表現を対象とするのは，あらかじめ役柄が設定されており，ストーリー展開のなかで明らかにされる「人物像」「人間関係」を基準に，話手が決める「自称」「対称」にあらわれる人間関係の距離を示すことができるためである。分析にあたっては，ドラマの台詞から当該の表現形式を取り出し，ドラマの中で設定されている登場人物の関係とその人称表現の形式を整理するが，特に対称（文中要素／呼びかけ）において，会話の当事者AとBが互いに「A君」「B君」と呼び合うか，「A先生」「B君」と呼び合うかという形式の違いに着目する。なお，形式の整理は，互いに同じ形式で呼び合う場合はintimacyが示され，互いの呼び方に形式の差がみられる場合にはstatus[20]が示されるとした，Brown & Ford（1961）の理論に拠る。

3.2.1　助教授と教授の関係

人物設定に上下の関係がある場合についてみていく。助教授・財前と教授である東および鵜飼，さらに，助教授・里見と教授である鵜飼および東，それぞれ助教授と教授の関係における，

19　下線＿＿＿は「文中要素の対称」，～～～は「呼びかけの対称」をあらわす。

20　本稿では対称を分析する指標としてこの分類を用いたが，「親近感」「地位」というパン（1982）の訳語ではなく原文のまま，intimacy，statusを用いる。

話手の「自称」，聞手への「対称（文中要素／呼びかけ）」の具体的な例を挙げて説明していく。

＜財前助教授と東教授の関係＞

第一外科助教授の財前にとって東教授は直属の上司であり指導者でもある。財前は東に対して自称「わたし」を用い，東への対称の文中要素では「先生」「東先生」「東教授」のバリエーションを使い分け，呼びかけでは「東教授」を用いる。

(17)　財前：東教授のお手を煩わせるまでもございません[21]。（1 話）

(18)　財前：わたしは東先生を信じております。（3 話）

(19)　財前：なにゆえ先生は，助教授として長年お仕えしてきたわたしを毛嫌いされるのか。（7 話）

(20)　財前：価値のない年代物に高い金を払う必要はありませんよ，東教授。（7 話）

一方，東は財前に対して自称「わたし」を用い，財前に対する文中要素では「きみ」，呼びかけには「きみ」「財前君」を使う。

(21)　東：きみは，わたしの言葉を批判するのかね？（1 話）

(22)　東：きみ，言葉を慎みたまえ。きみにそのような講義を聴かなくてもわかってるよ。（3 話）

(23)　東：財前君，いつもより今週はきみのオペが少ないようだがね。（6 話）

＜財前助教授と鵜飼教授の関係＞

第一内科教授で医学部長でもある鵜飼は，財前の教授選選出に向けて学内工作を謀っている。財前は鵜飼に対して自称「わたし」を用い，鵜飼への文中の要素では「先生」「鵜飼先生」「鵜飼教授」「鵜飼医学部長」を使い分け，呼びかけでは「鵜飼教授」を使う。

(24)　財前：先生こそ，いつも目の回るお忙しさと伺っております。（2 話）

(25)　財前：鵜飼先生は確かに，わたしを支持するとおっしゃられました。（10 話）

(26)　財前：はい，鵜飼教授のご診断なら間違いあるまいと，わたしがオペをかって出たのです。（2 話）

(27)　財前：あれは，わたしの義父が鵜飼医学部長に差し上げるようにと申しましたものです。（2 話）

(28)　財前：いや，鵜飼先生，鵜飼先生！失礼いたしました。（2 話）

鵜飼は自称に「ぼく」，財前に文中要素で「きみ」「財前君」，呼びかけで「財前君」を使う。

(29)　鵜飼：いやいや，ぼくは絵を見て歩くぐらいの時間はあるよ。多忙なのは，きみのほうだろう。（2 話）

(30)　鵜飼：何だか，財前君も一皮むけたようだね。（9 話）

(31)　鵜飼：大変なことをしてくれたじゃないか，財前君。（10 話）

＜里見助教授と鵜飼教授の関係＞

第一内科助教授の里見にとって，鵜飼教授は直属の上司であり指導者である。里見は鵜飼に対して，自称「わたし」を用い，鵜飼を文中要素で「先生」，呼びかけで「鵜飼先生」とする。

(32)　里見：先生が初診で早期の胃ガンと診断なさった女性の患者で，わたしが膵臓ガンを併発しているのではと…。（1 話）

(33)　里見：鵜飼先生，彼女を最期まで引き受けたいと思います。（6 話）

---

[21] 以下，例文の下線＿＿は自称，＿＿は「文中要素の対称」，＿＿は「呼びかけの対称」をあらわす。

一方，鵜飼は里見に対して自称「ぼく」を使い，里見に対する文中要素では「きみ」，呼びかけに「里見君」を用いる。

(34)　鵜飼：きみは要するに，ぼくが見落としをしたと言いたいのかね？　(1話)

(35)　鵜飼：ぼくは教授で，きみは助教授なんだよ。　(6話)

(36)　鵜飼：里見君，きみは志のあるいい医者だが，ぼくの方針に従えないのなら，第一内科を出て行ってもらうしかないね。　(6話)

＜里見助教授と東教授の関係＞

第一外科教授の東と第一内科助教授の里見の対話で，里見は自称「わたし」を用い，とくに東に呼びかける場面はない。

(37)　里見：わたしは，誠実ではありません。　(2話)

そして，東は里見に対して自称「わたし」を用い，里見に文中要素では「きみ」，呼びかけで「里見君」を使う。

(38)　東：実はあの手術は，わたしは許可は出していないんだよ。　(3話)

(39)　東：医者は派手な功績にばかり目を向けるのではなく，きみのように誠実なところがなくてはならない。　(2話)

(40)　東：はあっ，よく言ってくれたね，里見君。　(3話)

3.2.2　社会的な待遇表示としての「自称／対称」

「助教授と教授の関係」にあらわれた「自称／対称」の表現形式は，次のようにまとめられる。助教授である財前と里見は，教授である東に対しても鵜飼に対しても自称に「わたし」を使い，東教授も助教授の財前と里見に自称「わたし」を使う。鵜飼教授は財前にも里見にも「ぼく」を使うが，一貫「固定化」した使い方である。教授が助教授を呼ぶ対称は，文中要素にも呼びかけにも「きみ」または「苗字＋君」[22]が使われており，「固定化」した用法である。

助教授が教授を呼ぶ対称では，里見は鵜飼教授を文中要素で「先生」，呼びかけで「鵜飼先生」を使うが，財前は東教授に文中要素で「先生」「東先生」「東教授」，呼びかけで「東教授」，鵜飼教授に文中要素で「先生」「鵜飼先生」「鵜飼教授」「鵜飼医学部長」，呼びかけで「鵜飼教授」と呼び，特に文中要素で多様な使い分けがされているように見える。しかし，「東先生」「東教授」「鵜飼先生」「鵜飼教授」「鵜飼医学部長」のいずれも「苗字＋タイトル」という形式としてまとめることができ，助教授から教授を呼ぶ対称の人称形式は，「タイトル」または「苗字＋タイトル」だと言える[23]。

アメリカ英語における呼称と人間関係について示した Brown & Ford (1961) は，呼称を

---

[22]　パン (1982) は，「さん」「様」「先生」を敬称，「ちゃん」「ぼう」を愛称，比嘉 (1982) は，「牧師」「大尉」「校長」などを称号，「さん」を敬称とする。ここでは，「先生」「教授」「医学部長」「院長」などの職名を「タイトル」とし，「田中君」「田中さん」「花子ちゃん」などは，「苗字＋君」「苗字＋さん」「名前＋ちゃん」と個別に表記する。

[23]　菊地 (1994) は，「○○教授」「○○社長」は敬度の高い敬称ではなく職名であり，敬称「○○先生」とは異なるとする。ここでは，「教授」「先生」ともに「タイトル」とする。なお，「～君」「～さん」は単独で使えない接辞とみなし，「苗字＋君」「苗字＋さん」と表記するが，「先生」「教授」などは単独でもあらわれるため，タイトル単独では個別に「先生」「教授」，苗字につく場合には「苗字＋タイトル」のように表記する。したがって，財前が東を「東教授」「東先生」と呼ぶ対称の表現形式は「苗字＋タイトル」，「先生」「教授」と呼ぶ表現形式はタイトル個別の「先生」「教授」と示す。

なお，ここでは個々の敬称や愛称，および「きみ／おまえ」や「おれ／ぼく」の「待遇差」には言及せず，形式の違いにのみ着目する。

intimacy を指す呼称と status を指す呼称の２つに大別した。そして，呼称の形式を大きく「名前（first name)」(FN）と「タイトル（title）＋苗字（last name)」(TLN）の２通りにまとめ，これらの呼称を上下の関係に関わらず「平等」に使うことで intimacy が，一方が呼び方を「不平等」に使った場合には status が，示されると説明している。

この解釈を「助教授／財前，里見」と「教授／東，鵜飼」の関係における人称表現の例に当てはめると，例えば財前が東を「東教授」と呼び，東が財前を「財前君」と呼ぶことは「不平等」[24]であり，財前と東の病院の中での立場の違いが対称の表現に status の差としてあらわれているのである。

(41)（42）の例で，第二外科教授の今津と第一外科教授の東は，お互いに「東先生」「今津先生」と呼び合っており，両者の関係は status では示されない。つまり，この場合は「苗字＋タイトル」の形式を「平等」に使っているため，intimacy が指標となる関係[25]である。

(41)　今津：あら？東先生，もうお帰りですか？
　　東　：ええ。
　　今津：財前君のしゅうとに挨拶されましたよ。ハハハハ。
　　東　：今津先生は，このままでいいんですかな？　(5 話)

(42)　東　：よしましょう，今津先生。　(9 話)

3.2.3　助教授同士の関係

同窓で助教授同士，対等・親近関係にある財前と里見について，話手の「自称」，聞手への「対称（文中要素／呼びかけ)」の具体的な例を挙げていく。

＜財前助教授と里見助教授の関係＞

(43)（44）(45)　のように，通常，財前は里見に自称「おれ」「ぼく」を使い，里見は「おれ」を使う。そして文中要素でお互いに相手を「きみ」と呼ぶ。

(43)　財前：おれは偉くなりたいんだよ。　(7 話)

(44)　財前：結局きみとぼくはいくら話しても考え方の違いに行き着くみたいだな。　(4 話)

(45)　里見：きみが割り切ることで医者であり続けるなら，おれは悩むという一点で，医者でいられるのかもしれん。　(6 話)

(46)（47）のように，呼びかけでは「財前」「里見」と呼び合っている。

(46)　里見：おい，財前！一体どういうつもりだ？　(1 話)

(47)　財前：よく考えろ。里見。きみの大好きな研究も教授という権力に集まってくる寄付や製薬会社の委託研究費で賄われてるんだ。　(2 話)

また，第７話の学生時代を振り返る場面では，対称「おまえ」を使い合っている。

(48)　財前：どうしてもおまえに会いたくなってな。　(7 話)

(49)　里見：あのときのおまえの顔が忘れられんよ。　(7 話)

---

[24]　ここで言及する「平等」とは，待遇の程度の平等ではなく，「きみ」に対して「きみ」，「おまえ」に対して「おまえ」，また「東先生」に対して「今津先生」というように同じ形式で呼び合う「対称」の状態を指す。同じく，「不平等」とは，待遇の程度の不平等ではなく，「東教授」と呼ばれて「財前君」と呼ぶといった，異なる「対称」の形式で呼ぶことを指す。

[25]　ここでいう「intimacy が指標となる関係」は同じ職場の同等のポスト，同僚という程度に捉える。

しかし，時として，財前が里見に文中の対称で「里見先生」「一助教授」「あんた」，呼びかけで「里見君」「里見先生」と使い分ける場面がある。

(50)　財前：じゃ里見先生にお尋ねするよ。　(10 話)

(51)　財前：一助教授の意見にいちいち耳を傾けてはいられないからな。　(10 話)

(52)　財前：里見先生，何であんたいつもそんなに涼しい顔をしていられるんですか？　(7 話)

(53)　財前：里見先生。ありがとう，お返しするよ。　(6 話)

(54)　財前：里見君，ぼくに意見をするのは，これで最後にしてもらえるかな　(10 話)

3.2.4　感情表示としての人称表現

Brown & Ford（1961）の解釈を「助教授同士」である財前と里見の対称（呼びかけ）に当てはめると，(55) の例のように，里見が「財前」と呼び財前が「里見」と同じ形式で呼ぶ場合，人称があらわしている指標は intimacy である。

(55)　里見：なあ，財前。きみは，膵臓ガンのオペができるというので，舞い上がったんじゃないのか？　(1 話)

財前：確かに初期の膵臓ガンは拾いものだ。ほかの医者には渡したくない。しかし里見，ガンはガンだ。治癒しうる。　(1 話)

里見が財前を「財前」と呼ぶのに対して，財前が「里見君」と「苗字＋君」の形式で呼びかける (56) は，財前が大河内教授の目前で里見のたのみを断る場面での台詞である。

(56)　財前：里見君，失礼させてもらうよ。　(5 話)

大河内教授は，財前と里見が基礎講座で学んでいたときの恩師で，財前は堅物の大河内が苦手であるが，里見は研究や医療に対する考え方において大河内を師と仰いでいる。末期ガン患者の延命をはかるために主病巣切除をして欲しいという里見に対して，財前は「確実に助かる患者のオペを優先したい」と断るのである。財前は大物社長の食道ガン切除を成功させたばかりで，「ぼくの患者が 120 周年の記念に 1 億の研究費を寄付してくれて，何かと立て込んでいるんだ。」という。財前と里見は互いに助教授であり，同窓であることは変わっていない。次のシーンでは，「いくら悩んでみたところで，患者のためになるとはかぎらないんだよ，里見。」のように「里見」と呼びかけている。財前が大河内教授の前で里見を「苗字＋君」の形式で呼ぶ人称の形式は，財前と里見の関係が変わったことを示しているのではなく，intimacy が指標となる関係に status を指す人称形式を持ち込むことで，財前の優越感・虚栄心という感情があらわれているのである。

(57) は，内科の里見が外科の財前に手術を依頼した患者にガンの肺転移の疑いがあるとして検査を勧めたにも関わらず，検査の必要がないとしてオペを急いだ財前を里見がとがめる場面での台詞である。この日は東教授の退官日でもあった。

(57)　里見：思い上がりが過ぎるんじゃないのか？何があったにせよ，きみにとって東教授は恩師だ。

財前：里見君，ぼくに意見をするのはこれで最後にしてもらえるかな。年が明ければ，ぼくは教授に就任する。一助教授の意見にいちいち耳を傾けてはいられないからな。　(10 話)

財前は里見に対して「里見君」と呼びかけ，さらに「一助教授」という文中要素の対称を使う。

「年が明ければ，ぼくは教授に就任する。」という台詞にもあらわれているように，助教授同士で intimacy が指標となる関係であるのに status を指す「苗字＋君」の呼びかけを使うことで，人称形式に財前の「思い上がり」といった態度があらわれている。

また，財前が里見を「里見先生」と「苗字＋タイトル」の形式で呼ぶことがある。(58) は，教授選のライバルである石川大学の菊川の研究論文が掲載されている医学雑誌を，里見に返す場面での台詞である。

(58)　財前：里見先生。ありがとう，お返しするよ。　(6 話)

財前は，「教授選のめどもついたから少し余裕ができ」て，里見に「学内工作がうまくいって上機嫌というわけか。」と言われるほど，余裕のある態度をとっている。

(59) では，教授選が思ったようにはうまく運ばず，酔って「どうしてもおまえに会いたくなって」里見の研究室をたずねた財前が，そっけなく「これ飲んで，帰ってくれ。」とペットボトル入りの水を差し出す里見に対して，「里見先生」と呼びかける。さらに文中要素の対称に「あんた」を使っている。普段の財前と里見の関係では使われていない対称を個別，一方的に使うことによって，冷静に正論を言う里見に対する財前の苛立ちがあらわれている。

(59)　財前：里見先生，何であんたいつもそんなに涼しい顔をしていられるんですか？　(7 話)

いずれの台詞においても，里見が財前を呼ぶ「財前」という呼び方は変わっていない。したがって，財前が里見を「里見」という「平等」な形式ではなく，「里見君」「里見先生」という「不平等」な形式で呼ぶ場合，もともと intimacy が指標となる関係に，財前が status を指標とする人称表現を持ち込み，それによって，「話手」財前の「聞手」里見に対する心的な関係の変化が表現されているのである。

文中要素の対称をみてみると，財前と里見は，通常，(60) や (61) のようにお互いを「きみ」「おまえ」と，「平等」な対称の形式で呼んでいる。

(60)　財前：きみも隅に置けないなー。東教授のお嬢さんと家族ぐるみで親しくしているとは。
　　里見：何の用だ？きみが用もなくウチに来るとは思えないよ。　(6 話)

(61)　財前　財前：どうしておまえに会いたくなってな。
　　里見：おまえが基礎から第一外科に移ったとき，どんな患者でも助けてやるって豪語してたよな。何て傲慢なヤツだと思ったが，妙にすがすがしかった。あのときのおまえの顔が忘れられんよ。　(7 話)

里見が財前に対して常に「きみ」「おまえ」という対称を使っているのに対して，財前は里見に「あんた」「自分」「内科」「一助教授」「里見先生」など，対称を「不平等」に使う。里見が財前に対して使う対称の形式は変わらない，つまり，里見の財前に対する「心的距離」が固定的であるのに対して，財前が里見に対して使う対称の形式にさまざまなバリエーションがあるのは，財前の里見に対する「心的距離」のあり方が変動していることが対称の人称表現にもあらわれているのである。ただし，この変動は時間の要素がからんだ連続的な「親近関係の変化」でも，メイナード (2001) が指摘した，恋愛関係にある場合に「同一人物をいろいろな呼び方で呼ぶことで，ふたりの仲はより一層親しくおもしろいものになっていく。(p.79)」という「人間関係を豊かにしていく」相互的なストラテジーでもなく，財前から里見に対する嫉妬や虚勢といった感情に起因する個別的，一方向的な「心的距離」の変化を指す。

パン（1982）は，status と intimacy の指標だけでは「心の関係」を示すことが難しい[26]と指摘した。本稿ではパンの指摘とは別に，intimacy が指標となる関係に一時的に status を示す人称表現が持ち込まれることによって[27]「話手の聞手に対する心的距離の変動」が示され，この「個別的，一方的」な心的距離の変動が「話手の聞手に対する態度や感情」のあらわれとなることを指摘する。助教授同士で同窓という，ドラマで設定された財前と里見の関係における「里見」「財前」と呼び合う固定化した static[28]な人称表現と，場面に応じて話手・財前によって持ち込まれる「里見君」「里見先生」といった variable な人称表現があり，この変動しやすい variable な人称表現が「話手の心的な態度の変化」つまり「話手の感情表示」となるのである[29]。

4. 英語から日本語に翻訳したドラマにみる呼びかけとしての対称

ここでは，アメリカのテレビドラマ『ER／緊急救命室』[30]の英語の台詞と日本語に翻訳された台詞を資料として，英語，日本語それぞれの言語で「呼びかけの対称」が，どのような役割を果たしているのかをみる。

4.1 英語と日本語の翻訳にあらわれる待遇の違い

看護師と医師との関係を，英語の「呼びかけの対称」と日本語の翻訳とで比較する。英語と日本語の人称表現を比較するにあたっては，「タイトル（title)」を T，「苗字（last name）＋タイトル」を LNT[31]，「名前（first name)」を FN で示す。

4.1.1 医師と看護師の関係

（62）のように，看護師リディアは仮眠中のグリーン医師に投薬の指示を受けたあとに“Thanks, Mark.”と言う。（63）では，グリーン医師が看護師リディアに“Thanks, Lydia.”と言う。

(62) Lydia : Thanks, Mark.
リディア：わかりました。[32]

(63) Greene : Thanks, Lydia.
グリーン：どうもありがとう。

英語の台詞では，Mark，Lydia と同じ FN の形式で呼び合い，intimacy が指標となる。日本語の台詞では，リディアの台詞にもグリーンの台詞にも呼びかけの対称は使われていない。

リディアが仮眠中のグリーンを起こす場面で，(64) の英語の台詞にある呼びかけ Mark (FN) が日本語の台詞では「先生」（T）になる。

(64) Lydia : Doctor Greene? Mark!
リディア：グリーン先生。先生！

---

26 パン（1982）は，主に親族呼称がからんだ場合を例に指摘している。
27 通常は status が指標になる関係に，intimacy が持ち込まれることもある。
28 本稿では，この例で示したように「助教授同士で同窓」の財前と里見が「通常」呼び合う「里見」「財前」のような人称形式のあり方を static な人称表現，財前が「一時的」に里見を「里見君」「里見先生」と呼ぶ認証形式のあり方を variable な人称表現とする。以下，static，variable を用いる。
29 第一外科教授の東と第二外科教授の今津のようにお互いに「今津先生」「東先生」と同じ形式で呼び合う，intimacy が指標となる関係であっても variable な人称表現は使われない。
30 DVD 版『ER／緊急救命室ファーストシーズン第 1 話』（ワーナー・ホーム・ビデオ）
31 英語では「title＋last name」（TLN），日本語では「苗字＋タイトル」（LNT）と語順が変わる。
32 英語の台詞とそれに対応する日本語の吹き替え，それぞれ字幕を参照に聞き起こして文字化した。

看護師からの医師への「呼びかけの対称」を『白い巨塔』でみてみると，(65) のように看護師は里見を「里見先生」と，LNT の形式で呼んでいる。

(65)　看護師：里見先生，すいません。施行のサイン，お願いします。　(1 話)

(66) (67) のように病院勤務歴では先輩にあたる看護師君子が新人医師の竹内や柳原を呼ぶ場合の「文中要素の対称」でも「竹内先生」や「柳原先生」という LNT の形式が使われる。

(66)　君子：それで？竹内先生が出てけって言ったの？　(6 話)

(67)　君子：柳原先生が尊敬している財前先生だって，オペのできない患者さんなんか置かないわよ。　(6 話)

(68) のように，柳原は看護師君子を「亀山さん」と「苗字＋さん」LN*san*[33]の形式で呼ぶ。

(68)　柳原：すいません。亀山さん，ねえ亀山さん。　(1 話)

『白い巨塔』でも『ER／緊急救命室』でも日本語の台詞に，看護師が医者を「苗字＋さん」LN*san* の形式で呼ぶ例はみられない。日本語において，看護師と医者は status を指標とする関係としてあらわされていると考えることができる。

4.1.2　上下関係と親疎の関係

英語の台詞では，FN の呼びかけが頻繁にあらわれる。英語圏でも特にアメリカの社会においては，相手の名前を呼ぶということは大切にされるマナーのひとつであると言われる[34]。

(69) から (71) の例は，看護師長であるキャロルに対する呼びかけである。(69) はベントン医師，(70) や (71) は看護師たちが呼ぶ Carol という FN の形式が，日本語の台詞でも「キャロル」と FN であらわれている。

(69)　Benton : Hey Carol, can you give some...
　　ベントン：キャロル，大至急…。

(70)　Malik : Hey, Carol, Dr. Ross wants some PKU cards.
　　マリク：キャロル，ロス先生が，尿の試験紙はもうないかって。

(71)　Nurse : Hey Carol, did that Lasix come up yet? Because we need it now!
　　看護師：ねえ，キャロル。利尿剤がないけど，なんとかしてくれない？

英語の台詞にある FN の形式が，翻訳された台詞でも同じ FN の形式としてあらわれる場合，日本語の台詞のなかにアメリカ英語の人間関係と人称表現が示される，つまり日本語の台詞の人称表現の形式が，日本の人間関係のあり方ではなくアメリカの人間関係のあり方によって決まっているのである。

5.　おわりに

Brown & Ford (1961) は，status と intimacy の２つの指標を提案し，例えば A と B の会話において，対称の形式が話手 A と話手 B とで異なる場合には status が，同等の場合には intimacy が指標となると説明した。本稿ではさらに，常に status または intimacy が指標となる，固定的 (static) な人称表現のあり方と，場面に応じて個別に異なる人称形式があらわれる変動的

---

[33]　「苗字＋君」「苗字＋さん」「名前＋ちゃん」は，LN*kun*，LN*san*，LN*chan* と示す。

[34]　大杉 (1982, p.57)「ファースト・ネームで呼ぶのは一種の配慮的敬語表現と考えることができる。(太字は原文のまま)」他，井出 (1982)，鈴木 (1982)，安藤 (1986)，柴谷 (1989)，神崎 (1994) ,比嘉 (1982) などで言及されている。

(variable) な人称表現があることを指摘した。そして variable な人称表現は話手の聞手に対する「心的距離」の変化，すなわち話手の聞手に対する感情の表示となることを説明した。ただし，この variable な人称表現はすべての人間関係において記述できるものではない。本稿の分析では，助教授同士で同窓の財前と里見のように「里見」「財前」と呼び合う intimacy が指標となる関係にのみ variable な人称表現が観察され，第一外科教授の東と第二外科教授の今津のようにお互いに「今津先生」「東先生」と呼び合う intimacy が指標となる関係においては variable な人称表現は観察できなかった。指標とした intimacy および status，各々それ自体のあり方にも「待遇差」といった段階性があるため，指標モデルを修正する必要があるが，その詳細な記述・説明は今後の課題である。

本稿では，人称表現の選択を，話手が聞手との関係をどのように決定するかにかかわる心的距離から捉え，「心的態度の表示」と位置づけて説明した。話手の心的態度を示す文法事項であるモダリティやヴォイス，待遇表現の研究では，「話手／聞手」の関係を基準とした概念による記述がされてきたが，個々の説明における「人称」のあり方，「話手／聞手」の体系的な説明はなされてこなかった。本稿のような試みを積み重ね，「人称」を再整理することによって，モダリティやヴォイス，待遇表現などで示されてきた「人称制限」との関わりを話手による人称表現の選択という視点から見直し，「人称」の体系から総合的に説明することができる。

なお，ドラマの台詞を文字化する際に，発話場面に居合わせている人物「ワキの聞手」[35]などの情報を加えてデータを採取したが，本稿では，人称表現の選択に「ワキの聞手」がどのようにかかわるかについての詳細な分析はしていない。Clark (1993)，Bell (1984)，Brown & Levinson (1978,1987) [36]などで指摘されているように，コミュニケーション場面における，直接の聞手以外の参与者による影響も勘案したモデルを立てて説明することにより，本稿で示した，財前が大河内教授の前で里見に variable な人称表現を持ち込んだ例などが包括的に説明できる。コミュニケーション場面のモデル化は，「人称」から「心的態度の表示」システムを説明するうえでの重要な枠組みとなる。これも今後の大きな課題である。

資料

DVD 版『白い巨塔　第一部』(全 10 話 4 枚組 465 分，2004 年 3 月発売，ポニーキャニオン)

(原作：山崎豊子，脚本：井上由美子，主演：唐沢寿明)

DVD の日本語字幕を参照に全台詞を文字化し，資料として用いた。(7 時間 45 分)

DVD 版『ER／緊急救命室ファーストシーズン vol. 1』アメリカ NBC ドラマ (原題"ER")

(全 13 話 4 枚組 643 分，2001 年 5 月発売，ワーナー・ホーム・ビデオ)

第 1 シーズン　第 1 話 PILOT「甘い誘い」(1994 年放送　英語タイトル"24 Hours")

(脚本：マイケル・クライトン，監督：ロッド・ホルコーム)

DVD の字幕を参照に英語の台詞と日本語の吹き替えを文字化し資料とした。(2 時間)

35　蒲谷，坂本，川口 (1998，p.7)「ワキの相手」，ここでは「ワキの聞手」とする。

36　Clark (1992) の Audience design (speaker/participants/addressees/overhearers)，Bell (1984) の Audience design (speaker/addressee/overhearer/eavesdropper)，Brown & Levinson (1987) のモデル (speaker/ addressee /bystander; referent, setting)

引用文献

東 弘子 (1997)「日本語における人称とムードの一致」『南山国文論集』21(南山大学国語学国文学会), 7-25

安藤貞雄 (1986)『英語の論理・日本語の論理』大修館書店

井出祥子 (1982)「待遇表現と男女差の比較」『日英語比較講座 5 文化と社会』大修館書店, 107-169

大杉邦三 (1982)『英語の敬意表現』大修館書店

金井勇人 (2002)「失礼さという観点から見た二人称指示の体系」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 第3分冊』(早稲田大学大学院文学研究科) 48号, 83-91

蒲谷宏, 坂本惠, 川口義一 (1998)『敬語表現』大修館書店

神尾昭雄 (1990)『情報のなわ張り理論—言語の機能的分析—』大修館書店

神崎高明 (1994)『日英語代名詞の研究』研究社

菊地康人 (1994)『敬語』角川書店 (1997 講談社)

金水 敏 (1989)「代名詞と人称」『講座日本語と日本語教育 日本語の文法・文体 (上)』明治書院,98-116

金水 敏 (1995)「敬語と人称表現—「視点」との関連から」『國語學 解釈と教材の研究』1995 年 12 月号 (第 40 巻 14 号) 學燈社, 62-66

久野 暲 (1978)『談話の文法』大修館書店

近藤泰弘 (1987)「日本語の人称の性格について」『日本女子大学紀要文学部』36 号, 45-51

澤田治美 (1993)『視点と主観性—日英助動詞の分析—』ひつじ書房

柴谷方良 (1989)「日本語の語用論」『講座日本語と日本語教育日本語の文法・文体 (上)』明治書院, 388-410

鈴木孝夫 (1973)『ことばと文化』岩波書店

鈴木孝夫 (1982)「自称詞と対称詞の比較」『日英語比較講座 5 文化と社会』大修館書店, 17-59

田窪行則 (1997)「日本語の人称表現」『視点と言語行動』くろしお出版, 13-44

滝浦真人 (2005)『日本の言語論——ポライトネス理論からの再検討』大修館書店

パン, F. C. (1982)「呼称の社会学——日米の比較」『日英語比較講座 5 文化と社会』大修館書店, 61-82

比嘉正範 (1982)「会話構造の比較」『日英語比較講座 5 文化と社会』大修館書店, 83-106

廣瀬幸生 (1997)「人を表すことばと照応」『指示と照応と否定』研究社,2-89

三上 章 (1953)『現代語法序説』刀江書院 (1972 年くろしお出版より復刊)

メイナード, 泉子 K (2001)『恋するふたりの「感情ことば」』くろしお出版

山岡政紀 (2000)『日本語の述語と文機能』くろしお出版

Bell, Allan. (1984). *Language style as audience design*, Language in Society, 13, 145-204.

Brown, Penelope & Levinson, Stephen C.(1987[1978]). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press.

Brown, Roger & Ford, Marguerite.(1961). Address in American English. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 62:375-385. (Reprinted in Dell Hymes (ed.) 1966. Language in Culture & Society, 234-244. New York: Harper and Row.

Clark, Herbert H. (1992). *Arenas of Language Use*. University of Chicago Press, Tx.

Fillmore, Charles J. (1997). *Lectures on Deixis*. SCLI Publications, Stanford University.

Siewierska, Anna. (2004). *Person*. Cambridge University Press, Cambridge.

Yule, George. (1996). *Pragmatics*. New York: Oxford University Press.